

倉庫事業拡大へセンター

大和町 配送網広げ利益確保

大昇物流(和野裕一社長、宮城県大崎市)は倉庫事業の更なる拡大を目指し、1日から大和ロジスティクスセンター(大和町)を運営している。倉庫事業の強化で、輸送機能を向上させ、配送網を拡大し、利益確保を図る。(鈴木明香理)

積合せ輸送サービス強化

大昇物流

大和ロジスティクスセンターは、東北自動車道・大衡インターチェンジ(I

C)から2kmの第一仙台北部中核工業団地に位置し、敷地面積1万平方メートル、鉄骨造り2階建て、延べ床面積4640平方メートル。近年、大和地区はトヨタ自動車関連の企業が並び、自動車関連企業が活発化している。今後も発展することを見越して、同センターでは立地を生かし、自動車関連部品や関連商材のほか、あらゆる貨物を取り扱う。積合せ輸送サービスを強化する。大昇物流の石田物流センター(大崎市)は、関東や関西、東北地区から集められた貨物の集積地で、東北6県への混載輸送のデポ拠点になっている。しかし、同センターではLC(ロジスティクスセンター)・TIC(通過型センター)・営業倉庫と幅広く事業展開しているほか、東北エリア全域の貨物を管轄していることから、年々増加する貨物取り扱いを分散化する必要性を感じていた。今後大和ロジスティクスセンターの立地を最大限活用し、労働環境の整備と、更なる利益拡大を図る。同センターは、延べ床面



輸送を絡めたハブ&スポーク事業拡大で利益向上を目指す

フレーム修正サービス注力

道北初 ゆがみ計測装置導入

フレーム修正作業はBP

架装工場(同市)で行っている。大型トラックにも対応した作業スペースを2カ所に増やした上で、修正装置と計測装置を導入し、9

積1120平方メートルの2階建て事務所棟と隣接し、地元企業や東北に進出したい関東の企業へテナント事務所として賃貸する予定だ。同社の倉庫は7棟、物流拠点としては8拠点となった。作業員の配置転換を見越し、大和ロジスティクスセンターの稼働に先駆けて既存の拠点に人材も多く確保済み。今後は、マテハン機器導入による倉庫内の空間利用最大化やIT(情報技術)の活用、省人化などを追求する。「2024の対応に加え、ドライバーの高増大により事業が難しい状況が送を絡めたハブ事業拡大で利益

中学生が職場見学

宮ト協と連携 トラック輸送PR

仙台配送(尾上寿昭社長、仙台市宮城野区)は15日、地元中学校からの職場見学を受け入れ、会社概要を説明した後、出発前呼や日常点検、荷物の積み込み現場などを案内した。同社の特色を紹介することも、生活や産業発展に重要な役割を果たす「トラック輸送」をアピールした。宮城県トラック協会(庄子清一会長)と連携した取り組み。地元放送局が制作

木智史次長が応初めに、会議ク運送業界と仙社説明が行われついで、佐々協が作成した「TRY TR RANSPOR に、ライフライック輸送の重アピール。また会社紹介として一緒にご飯が食社」など従業員

作業スペースを増設することで、処理できる台数を増やした。専用の計測装置も採り入れ、精度と作業効率を高めた。修正装置も油圧が強いものを導入してお

全の確保、健康問題への取り組み。この後、生徒場を回って作業呼室ではアルコ

フレーム修正作業はBP架装工場(同市)で行っている。大型トラックにも対応した作業スペースを2カ所に増やした上で、修正装置と計測装置を導入し、9